

238 中央大学招待会

『法学新報』第十九卷五(二二〇)号

明治四十二年五月一日

○中央大学招待会 司法官会議の爲め全国の重なる司法官の出京せらるるあり又谷野、片山、二上の三講師は新に欧州より帰朝せられたるを以て中央大学に於ては去月二十日をトし是等諸氏及び学員会評議員の招待会を開催したり当日は午後五時を以て余興を開始し眞龍齋貞水は「寛政美談武士道の華」を約一時間に渉り最も快活に演し細川風谷は「奴内蔵様」の一席を滑脱に弁して就れも喝采湧くか如く夫れより一同宴会室に入りて食卓に就き宴酣なる頃菊池学長は起て開会の主旨を述へ来賓諸氏の忙中を割て来臨の光栄を得らるを謝し横田大審院長は来賓を代表して謝辞を述へ且つ年年多数司法官の需用あれば中央大学は今後益多数の卒業生を出さんことを望むと同時に社会の進運に伴ひ此上にも精選して粗製濫造を警むべきを規せらる主客は皆師友にあらされは旧知にして往時を談し時事を話して興の罄くるなく其全く散会したるは午後十時を過く而して当日の来賓諸氏は左の如し

横田國臣	松室致	河村讓三郎	平沼騏一郎
長谷川喬	古莊一雄	藤田隆三郎	馬場愿治
西川鐵次郎	前田孝階	一瀬勇三郎	河村善益

川淵龍起	山川德治	奥宮正治	井上正一	坂崎備	齋藤正毅	木戸梅藏	鹽谷恒太郎
富谷銚太郎	高橋文之助	磯谷幸次郎	大田黑英記	森 栄	瀬下清通	鈴木濟美	土方寧
山本錚之助	中川富太郎	小澤甚市	黒田英雄	高橋捨六	中橋徳五郎	山田喜之助	江 木 衷
大岩金次郎	石井喜兵衛	河西博文	安井重三	石山彌平	原 嘉造	穂積八束	卜部喜太郎
千谷泰次郎	執行軌正	保田久三郎	横田信謹	岡野敬次郎	三宅碩夫	菊池武夫	奥田義人
齋藤覃次	三家重三郎	松野篤義	笈 武 文	伊藤悌治	佐藤正之	(順序不同)	
下山英五郎	瀧川長教	柿原武熊	山本辰六郎				
丸山精三	吉江高行	前田道一	寺島小五郎				
野々山茂	百島一八	濱田徳太郎	深 野 達				
松田協輔	飯田高顯	山田豊策	福田武規				
遠山正綱	雪 下 陽	平田小三郎	阿部義彰				
磯 部 醇	廉又武三郎	乾 孚 志	吉良辰次郎				
佐 藤 信	高橋克親	西郷綱樹	河島正藏				
千葉直枝	渡邊八郎	田中秀夫	錦織義弘				
松井通昭	百瀬武策	日高実容	藤田菊江				
柳澤重固	戸田敬一郎	橋爪捨藏	三浦順太郎				
手塚吉康	松浦龜藏	淺野親至	片山義勝				
二上兵治	土居侃夫	小野澤龍吉	田中文藏				
森本邦治郎	井上敬吉	石原毛登馬	富田祐太郎				
大場茂馬	尾崎利中	小栗盛太郎	小野瀬不二人				
笠原文太郎	川久保源治	川島仟司	高木金之助				
田中武雄	高野金重	中山佐市	野村美策				
窪田欽太郎	山浦橋馬	福田又一	小出範治郎				
寺 島 直	手塚彦太郎	新井要太郎	齋藤二郎				